

郷土の偉人



静岡県浜名郡和田村（東区安新町）に生まれた。静岡師範学校を経て1921年、東京高等工業学校（現・東工大学）附設工業教員養成所卒業。同年、神奈川県立工業学校教諭、浜松高等工業学校（現・静岡大学工学部）助教授となり「無線遠視法」（テレビジョン）の研究を本格的に開始する。

高柳健次郎 氏 安新町出身

高柳健次郎氏

世界初のテレビ実験は浜松で成功した

今ではわたしたちのくらしに欠かせないテレビ。大正時代、世界ではテレビを発明しようとたくさん科学者が競って研究していました。そんな世界中の科学者の先をこして、浜松で世界で初めてのテレビ実験が成功したのです。そして、その偉業を成しとげたのが高柳健次郎。今では、「テレビの父」とよばれる科学者です。



最新の4Kテレビ

立ち読みしたマンガでテレビの研究を決心

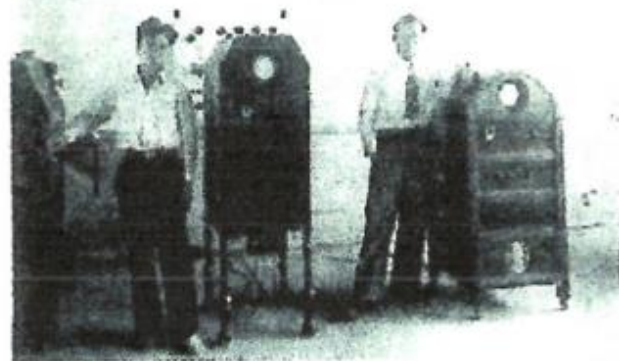
小学校のころの健次郎は、体が弱く勉強も運動も苦手でした。しかし、機械の仕組みを考えたりするのが大好きで、やがて科学に興味を持つようになりました。そして大学の時先生から聞いた「今は知られていなくても、十年後、二十年後に世の中に役立つ技術を見つけ出して勉強なさい。」という言葉に感動し、自分もそんな研究に取り組もうと決心します。それから、研究テーマをさがし始めました。まず外国の様子を知ろうと、フランス語やドイツ語を勉強し外国の本を読みあさりましたが、これと思うテーマは見つかりません。しかし、ある日、本屋で立ち読みしたフランスの雑誌で「未来のテレビジョン」のマンガを見つけました。無線やラジオに関心を持っていた健次郎は「マンガになるほどだから、ヨーロッパの科学者は何か始めているかもしれない。うっかりしてられない。」と、テレビの研究に取り組むことを決めたのです。1923（大正12）年の夏ごろのことでした。

世界で初めてテレビの実験に成功

健次郎は、1924（大正13）年浜松高等工業学校（今の静岡大学工学部）の先生になりました。その時校長先生に何を研究したいか聞かれ、「テレビジョンです。東京の歌舞伎を浜松の家庭で見ることができるようにする技術です。」と答えました。校長先生はとてもおどろきました。まだラジオ放送も始まっていないころですから当たり前でした。それでも校長先生は健次郎が研究できる準備を整えてくれたのです。研究を始めても最初はうまくいかず、研究室を取り上げられてしまうなど苦勞の連続でした。しかし1926（大正15）年、ついに世界で初めてブラウン管の上に「イ」の字を映し出すことに成功したのです。



試作ブラウン管



最初の実用型テレビジョン受像機

テレビの完成、そしてビデオへ

健次郎は当時世界の主流だった機械方式の限界を見抜き、むずかしい電子方式に挑戦。1935（昭和10）年に全電子方式テレビジョンを完成させます。そのころ開催が決まった東京オリンピックのテレビ中継が計画され、健次郎は「NHK技術研究所」で研究を進めます。1937（昭和12）年にはテレビ放送システムを作り上げましたが、戦争のため計画は中止。研究も中断します。戦後苦勞して研究を再開し、1953（昭和28）年のテレビ本放送実現を支えました。さらに健次郎は、1959（昭和34）年に世界に先がけ2ヘッド方式のビデオテープレコーダーを発明するなど、いつも一步先を走る科学者として研究を続けたのです。





薬師町 田島昭次

歴史に残る人々

小枝条次郎 (小枝来舗) 金原明善 高柳健次郎

杉浦睦夫 鈴木暦太郎 大橋島太郎 石山脩平

その他和田地区の偉人をご存知の方ご一報ください

090-8671-6548 田島

和田地区偉人R-3

次回鈴木歴太郎氏予定